

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名 都島区

学 校 名 高倉小学校

学校長名 阪口 篤

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・高倉小学校では、第6学年 121名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語の平均正答率は71(市65、全国66.8)、算数は65(市58、全国58)、理科は59(市55、全国57.1)だった。無回答率は国語1.1(市2.8、全国3.3)、算数は1.5(市3.3、全国3.6)、理科は1.0(市3.0、全国2.8)だった。国語、算数とも昨年度より高い数値となっており、回答を国語の6つの各内容、算数の5領域の問題別で見ても、すべてで全国平均を上回る正答率となっていた。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

【国語】記述式の問題形式が全国平均より11.4%も高い。問題をよく読み、粘り強くがんばることができている。漢字の書き取り（「好み」「暑い日」）の正答率も82.2全国比+5.3と高い数値となっている。

【算数】どの領域も全国平均より高くなっている。「変化と関係(68.9全国比+11.4)」「測定(64.0全国比+9.2)」が顕著に高い正答率となっている。また、五角形を基本図形に分割して面積を求める方法や二つの数量の変化の関係を式に表す方法を言葉で表現する記述式の問題では全国比から約10%高い数値となっている。

【理科】B区分「生命・地球」は全国平均より高くなっている。（生60.2全国比+8.2、地67.1全国比+0.4）一方でA区分「エネルギー・粒子」はわずかであるが全国平均を下回った。エ46.5全国比-0.2、粒50.5全国比-0.9）また全国的にも正答率が低かった金属の特性については4.9%と低い数値であった。（全国比-5.7）

質問調査より

●「人の役に立つ人間になりたい」では「当てはまらない」が0.0%だった。他者を思いやる姿勢が醸成している。「困っているときは、進んで助ける」では肯定的な回答が95.0%で、府や全国平均より1~2%高くなっている。

●「国語が得意」63.3%「国語が好き」48.3%「算数が得意」55%「算数が好き」49.2%と得意ではあるが、興味は低い数値となっている。一方で理科は「得意」「好き」双方とも74.2%である。理科においては「観察や実験がよく行われる」の最も肯定的な回答が75.0%と高い数値（府61.1、全59.6）になっている。国語や算数においても、読書活動や数学的な考えを用いた活動など工夫をこらし、学問としての興味関心を深めていくことが必要である。

今後の取組(アクションプラン)

●本校では【学びが深まる「対話」とは？】を主題として、研究を進めている。上記、質問調査でわかった本校児童の「役に立ちたい」「助けてあげたい」を最大限に活かして、学習活動で「話し合い」や「教え合い」をより多く取り入れ、相互に高め合う学習活動を展開していく。

●自身が興味関心をもった事柄を深められるように「自主学習ノート」活用を進めていく。調べた内容や工夫されている点をお互いに見せ合うことで、自主学習への意欲を高めさせる。また、取りかかりに苦慮する児童については「漢字の復習」や「計算練習」などから取り組めるように助言指導していく。
